CIS　Scoreを用いたDLB（レビー小体型認知症）診断の最適化

前村 啓介[1)] 神澤 孝夫[2)] 金井 義弘[1)] 安居 剛[1)] 中澤 将城[1)] 藤澤 由希[1)]
山路 勇護[1)] 大川 竜也[1)] 中島 理沙[1)] 今泉 龍人[1)] 美原 盤[3)]
1)公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 画像診断科
2)公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 認知症疾患医療センター
3)公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 神経内科

[目的]DLB臨床診断基準として脳血流SPECTよる後頭葉血流低下が挙げられているが、あくまで支持的指標で、診断の補助として捉えられる。最近、脳血流 SPECT による認知症統計解析ソフトeZIS（eazy Z-score Imaging System）の解析指標としてDLB診断のための CIScore が注目されている。そこで当院で検査を実施し後頭葉血流低下を示したDLB症例を用い、CIScoreの有用性について検討した。
[方法]2015年2月～2017年7月までに認知症疑いにて受診し[N、N’-エチレンジ-L-システイネート(3-)]オキソテクネチウム(99mTc)、ジエチルエステルによる脳血流SPECTを受けた患者259名のうち後頭葉血流低下症例29例（年齢：71.1±8.2才、男/女：12/17、MMSE：23.1±4.7）を対象とし、神経内科医によるDLBの臨床診断と、SPECT画像所見(後頭葉血流低下とCIScoreによるDLB診断)の陽性的中率を比較した。
[結果]後頭葉血流低下を示した症例のうち神経内科医による臨床診断から DLB と診断される患者は13例（44.8%）であった。そこにCIScoreを追加し境界閾値を0.16以下とした場合、DLB診断において、陽性的中率は19例中12例で63.2%になった。
[結論]DLB診断のSPECT所見として後頭葉血流低下とCIScoreを加えることにより、診断率が向上することが示唆された。DLB診断に対するさまざまなモダリティや検査項目が用いられている中、CIScoreを一つの診断ツールとして加えることはDLB診断において有用性が高いと考えられる。